

市内の高齢者福祉施設などに備蓄マスクなどを配布

健康づくり課 ☎34・3282

市は3月17日、保健福祉センター「はなみずき」で、市内の障害者福祉サービス事業所と高齢者福祉施設向けに、マスクなどを配布しました。配られたのは、非常時に備えて、市職員向けに備蓄しているサージカルマスクと手指消毒用スプレー。施設職員は、それぞれはなみずきを訪れ、市の担当者から配布マスクなどを受け取りました。訪れた施設職員は「十分な量のマスクを買うことが難しい状況が続く中、今回の配布は大変ありがたい」と話しました。



市職員からマスクを受け取る施設職員(左)

市教育委員会と静岡大学が連携協定を締結

教育総務課 ☎36・7952

3月16日、市教育委員会と静岡大学教育学部は、学校教育の発展・人材育成を目的とした相互連携に関する協定を締結しました。

同大学が、教育委員会と協定を締結するのは県内初。附属島田中学校を中心とした活発な交流を推進し、研修の充実や地域課題の解決を目指します。江口尚純学部長は「これまで以上に市と交流するための新たな一歩。大学による地域貢献を積極的に行いたい」とあいさつしました。



協定書に署名する江口学部長(右)と濱田教育長

島田地区安全運転管理協会が横断旗を寄贈

教育総務課 ☎36・7952

3月23日、島田地区安全運転管理協会から市教育委員会に、横断旗36本が寄贈されました。

横断旗の寄贈は、平成15年から始まり、今回で17回目。岡本廣一会長はあいさつで「これからも、子どもたちの交通事故防止に役立ててほしい」と話しました。濱田教育長は「これまで頂いた横断旗と合わせて、有効活用していきたい。多くのボランティアの協力もあり、登下校する子どもたちが安心して歩ける」とお礼



横断旗を寄贈する岡本会長

ペアレントサポーターが文部科学省大臣表彰を受賞

社会教育課 ☎36・7963

3月2日、島田市ペアレントサポーターが、特色ある活動を行っている家庭教育サポートチームをたたえる文部科学省大臣表彰を受賞したことを、市長に報告しました。

表彰状を受け取った高橋典子さんがチームを代表して「取り組み始めてから、ついに表彰されるまでになった。活動を続けてこられたのは、多くの支えがあったからこそ。これからも寄り添う姿勢を大切にしながら、保護者が安心して話し合える場を作っていきたい」とあいさつしました。



表敬訪問したチームのメンバーと市の関係者

の言葉を述べました。

長年にわたり交通安全活動を続けた市民を表彰

◎生活安心課 ☎36・7144

市は3月24日、市役所で「島田市交通安全表彰式」を開催し、長年にわたり児童の登下校を見守り続けている、安原宜仙さんと森田昌夫さんを表彰しました。

安原さんは10年以上、島田第二小学校の通学路で児童をはじめ歩行者の横断指導などの活動が続けてきました。森田さんは活動歴50年以上で、伊久美小学校の通学路で交通安全活動に貢献してきました。2人は「元気によくあいさつしてくれる子どもたちに、毎朝会えるのが楽しみ。児童たちの成長を感じられるのもうれし

全活動を続けたい」と意気込みを語りました。



表彰状を手にする安原さん(中央左)と森田さん(同右)

リハビリ病児保育室「えくら」が4月にオープン

◎保育支援課 ☎36・7195

医療法人リハビリが4月1日、リハビリ病児保育室「えくら」をオープンしました。市は、同法人に病児保育事業を委託しています。

えくらは、市内初の「クリニック併設型病児保育施設」。生後6カ月から小学6年生までの病中の子どもで、保護者がその日に保育できない人を対象に、保育士や看護師による一時的な病児保育が受けられます。



河原一丁目にオープンした「えくら」

J Aが感染症予防のため3市1町に緑茶を寄贈

◎農業振興課 ☎36・7409

J A大井川から3月13日、感染症の予防に役立ててほしいと、管内の市町にリーフ緑茶1000g入りのパック100個が、寄贈されました。

島田市には、牧田吉博常務理事らが訪問。牧田氏は「カテキンなど免疫力を高める成分が多く含まれる緑茶を、大勢の人に届けてほしい」と話し、染谷市長は「市民にお茶の効能を、改めて感じてもらえる機会になる」と感謝しました。

寄贈されたお茶は、介護施設などに配布する予定です。



染谷市長に緑茶を手渡す牧田常務理事(左から2人目)

市営住宅の管理を委託するための協定を締結

◎建築住宅課 ☎36・7193

3月27日、市は市営住宅の管理を委託するための協定を、県住宅供給公社と締結しました。

この協定は、住宅情報の一元化による市民サービスの向上と、市営住宅の管理における業務の効率化・最適化を目的に締結。同公社は、入居申し込みの一本化や、24時間電話受付サービスなどを提供します。

矢野弘典理事長は「住宅管理のノウハウを生かし、入居者のニーズに応えていきたい」と話しました。



協定書を手にする矢野理事長と染谷市長